



しばた いさお 柴田 勇雄 議員

### 問 口蹄疫の危機管理態勢と対策は

### 答 消毒を徹底し侵入防止と防疫体制を整備

議員

口蹄疫問題は、畜産農家に直接降りかかる、看過できない極めて大きい問題です。

その対策について

- ① 口蹄疫対策の危機管理態勢と事前対応策は現在どのような状況になっているのか。
- ② 8月に当町で開催予定の県畜産共進会（ホルスタインの部）はどうなるのか。

町長

① 町では4月20日に県中央家畜保健衛生所から、口蹄疫発生第一報を受け、全畜産農家に問い合わせた結果、異常がないことを確認しました。

その後、注意を呼びかけるチラシの配布や防疫対策会議を設置するなど、随時、対策を講じることになりました。また、5月29日には、消毒薬

を全畜産農家に配布しました。今後は、侵入防止対策と防疫体制の整備を進め、畜舎消毒事業など、対策のための費用を補正予算に計上しました。

- ② 県畜産共進会については、感染が懸念されたことにより中止になりました。

### 問 国体開催地に内定競技施設の整備を

第71回国民体育大会開催地の内定に係る対応について

- ① 軟式野球競技施設の整備は。
- ② 受け入れ態勢と関係団体との連携は。

### 答 改善を要する箇所計画的に整備する

① 岩手県国体準備委員会で、8市町村での軟式野球競技開催を決定、本町も正式に内定しま

した。

先般、国体開催地決定に伴う中央競技正規視察団が視察し、改善を要する点の指摘やアドバイスをいただきましたので、計画的に整備します。

- ② 8市町村で連携し受け入れ体制を整備していきませんが、運営には、審判員や記録員、アナウンスなど多くの関係者の協力が不可欠であり、町体育協会等関係団体を通じて関係者の指導、育成を図っていきます。

本町で初となる国体競技の開催を、町民の各種スポーツ競技力の向上、日常生活へのスポーツ普及と健康づくり推進の貴重な機会と捉え、国体開催に向け積極的に体制を整備していきます。



やまぎし み 山岸はる美 議員

### 問 遊休農地の解消に向けた取組は

### 答 耕作放棄地解消の啓発に努めます

議員

面積の86割が森林という地理的条件のなか、わが町の農業は発展してきました。

畜産においては、飼養頭数の増頭により、粗飼料生産の自給率を高めることが経営の安定化につながるというわれています。

しかしながら、大型機械の進入が困難な農地は、敬遠されている状況です。このような実態をふまえ遊休農地の解消こそが今後、町の農業の展望に深く関わってくると思うが、これまでの対策と成果、また解消策は。

町長

本町の遊休農地いわゆる耕作放棄地の動向は、平成20年度の農業委員会の調査では、草刈りや整地を行えば農地に普及が可能となる面積が27割、復旧に大規模な基盤整備が必要な面積が30割、森林・

原野化して農業利用が著しく困難な農地が25割で合わせて82割です。農業委員会では16年から「遊休農地解消モデル展示圃」を設置して、耕作放棄地解消の啓発に努めています。

20年度からは「アクションサポート事業」で不在地主の農地を借用し、幼稚園・保育園児とともに「そばまき」「収穫まつり」を行い、農地や食の大切さ、収穫を喜ぶ心を育む取り組みなどをしてきました。

その結果、農家が農地の貸し借りなど集積と合わせて解消した面積は16年度12.6割、17年度9.9割、18年度8割、19年度11割、20年度4.3割という状況であり、そのほとんどは町の基幹産業である畜産のための飼料作物の作付けとなっており、耕作放棄地が増えている状況にはないと考えています。



遊休農地に老人クラブの皆さんと一緒に野菜苗を植える葛巻保育園の児童

### 問 子宮頸がんワクチン接種に対する考えは

若い女性に急増中の子宮頸がん

は、ワクチンを接種することで約70割を予防ができ、唯一予防できるがんといわれ、10代前半の女児に対するワクチンの接種が効果的であるといわれています。

### 答 国の動向見極め前向きに検討を

本町におけるワクチン接種適齢期とされる人数の把握と助成の考えは。ワクチン接種適齢期を10代前半と想定した場合、各年齢で25人前後と見込まれます。予防対策としては、従来の婦人検診による早期発見、早期治療と今回のワクチン接種が極めて重要と認識しています。

助成については「厚生労働省が公費助成の検討に着手」との報道もあり、国の状況等を見ながら前向きに検討します。